

77巻4号

2022年10月1日

YAA 天文会報

(10~12月号)

794号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



NGC6960 網状星雲（西側）

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正本

秋の彼岸も過ぎ、日暮れが本当に早くなりました。残暑ももう少しの我慢、これから空も澄み、星見の楽しい季節になっていきます。

10月8日は後の月・十三夜です。栗名月や豆名月という呼び名でも知られています。中国の唐時代の観月の宴が由来といわれている十五夜と違い、旧暦9月13日の月も十五夜同様に美しいということと、収穫を感謝する意味も含めて始まった日本固有の行事とのことです。また十五夜と両方お月見しないと縁起が悪いという言い伝えもあります。果たして8日のお天気はどうでしょう？

11月も月の話題ですが、11月8日に皆既月食を全国で見ることができます。18時8分に部分食が始まり、19時16分に皆既食となり、食の最大は19時59分、20時42分に皆既食が終わり、部分食は21時49分に終わります。今回の皆既月食は月が地球の影の中心近くを通るため、皆既月食の時間が1時間26分と非常に長く続きます。皆既の始まり→食の最大→皆既の終わりまでの月面の色の変化が楽しめると思います。また同時に皆既中に天王星（5.7等星）が月に隠される食も起きます。20時41分（東京時刻）に潜入が始まり、皆既終了後の21時22分（同）に出現します。望遠鏡で見ると赤銅色の月に青緑色の天王星が隠れていく様子が見えます。天王星は視直径が4"弱あるので、10秒以上かけて月にじわじわと隠れていきます。出現も同様ですが見ることは難しいと思います。

12月14日22時にふたご座流星群が極大を迎えます。今年は下弦前の月明かりがあり条件が悪いのですが、いつも活発な活動を見せる流星群ですから、月を視界から避けるような場所・方向を選んでみれば十分に流星を見ることができます。

10月21日に金星が外合となり、久しぶりに宵の空に戻ってきます。年末に近づくと日没後の南西の空にだんだん目立つようになってきます。12月22日に水星が東方最大離角となり、日没後の南西の空低く見えています。29日には金星の北1° 24' まで接近します。

写真は、9月10日の十五夜の月を撮っていた際、たまたま旅客機が月の前を横切った瞬間です。いつかとは狙っていた構図なので、中秋の名月でもありラッキーでした。

9月10日20時34分
PENTAX K-3 Mark III
/ HD-DA 1:4.5-6.3 55-300mm
f5.6 1/800秒 ISO-1600



撮り直しもまだまだ、NGC7293

山形幹夫

今年の梅雨は当初やけに早い梅雨明けの発表がありました。私事、その後秋雨前線風の前線がすぐに発生して恐らく天気が悪い夏となるだろうと予想していました。結果としてそんな感じの夏となり、天体写真の撮影機会も殆どありませんでした。もはや日本の天気では、と諦めに似た発言もありました。

789号(2021年7月)で撮り直しするとしてNGC7293らせん状星雲(みずがめ座)の画像を掲載します。なんとか写ってるよね、というレベルです。難しいです。今回はカメラをニコンD810Aとし、25cmF4、ISO5000、60秒×19ショット、トリミング有です。撮影日：2022年7月1日 撮影地：長野県入笠山 薄明が始まってしまい合計19分の露光です。また薄雲&霧が流れている気象状況。このため星雲下側の二重星が分離していません。星雲自体も細かい構造が見えません。昨年の一ショットカラーCMOSカメラに比べて赤色の発色が良く出ていて、高感度設定による画素のザラザラ感が少ないと考えます。この星雲上側にはH α の腕のような部分がありますが、それをはっきり撮影できている例は少ないようで、モノクロCMOSカメラLRGB撮影なら簡単に写るといってもなさそうです。更なる撮り直しを試みて参ります。祈、快晴！



【表紙写真】NGC6960 網状星雲(西側)はくちょう座

撮影日：2022年6月30日 撮影地：長野県入笠山 25cm f1000mm SkyWatcherコマコレクタ直焦点 カメラ：Nikon D810A ISO5000 60秒×57 フラット60秒×10 コンポジット 正方形にトリミング有 「魔女のほうき」とも呼ばれる。

日月星の伝承を訪ねて (73)

横山好廣

月見に白鳥

名月の時季に因み「白鳥」に着目しながら、調査で見聞した月見の習俗を考えてみたい。なお、ここに取り上げる「白鳥」とは、所謂「白鳥徳利」（白鳥と表記）のこと。月見でススキ等を挿すときに用いられる徳利の一種である。

加藤唐九郎編『原色陶器大辞典』に、「陶磁製の酒徳利の一種。白色で首が細く胸の円い一升徳利である。形が白鳥に似ているのでこうついたのである。」とある。江戸末の喜田川守貞著『守貞漫稿』に、「江戸ニテ用之コトアリ白鳥ト云ハクテウト字音ニ云白玉薬ヲカケル」とある。値段は、横浜・生麦村の名主が著した『関口日記』に、天保15年(1844)・白鳥240文、嘉永3年(1850)・爛徳利58文とあり、白鳥はやや値が張る。

●厚木市七沢の朝生家から譲り受けた白鳥。

寸法は（高）27.5 cm、（経）15.5 cmの陶器製。
絵柄はススキ文様。一升入り。



ススキ等を月に供えるには花瓶でもよい筈だが、月見(十五夜)にはお神酒と併せてススキを一升瓶や徳利（白鳥）に挿すという回答が多い。身近の酒器にススキを挿して月に供えるのである。中でも白鳥は特別で他の徳利類と異なり月見専用のものである。白鳥の嚙矢やその由来等については不明であるが、お神酒・徳利(白鳥)・ススキの三点の組合せからは、稲作の収穫儀礼の名残を感じるし、絵柄のススキ文様も興味深い。

筆者の調査で、神奈川県内の白鳥にススキを挿すというのは次の通りである。横浜市金沢区、栄区、旭区、三浦市、伊勢原市、厚木市、相模原市、平塚市、大磯町、二宮町、開成町、愛川町の19ヶ所である。これを以って、地域の習俗であると言えないのは当然なことだが、月見には白鳥という家風を強く感じた。

中でも印象に残っているのは、白鳥に初めて出会った横浜市金沢区釜利谷の芳垣家でのことである。1982年秋、十五夜用のススキを挿した白鳥や団子・サトイモ・豆腐・野菜・果物等を見せて頂いた。白鳥にススキを挿した姿は圧倒的で、さすが月神や田の神の依り代に相応しいと感じた。小さな徳利では迫力が出てこない。さらに、月見には何が無くてもサトイモだけはお供えするものだと言われてきたという、この伝承は月見と畑作の習俗を考える時に貴重である。

近年の白鳥で印象深いことは、2018年5月、厚木市七沢の朝生家との出会いである。同家を訪ねたのは、七沢集落にあるという二十三夜塔がどうしても見つからないため、その所在を尋ねてのことであった。朝生家の親身の支援にも拘わ

らず、二十三夜塔を発見することは出来なかった。しかし、月見の話を伺うなかで白鳥のことが話題になり、大切な白鳥を譲り受けることになったのである。全く嬉しい限りであり、朝生家のご厚意には本当に感謝の念で一杯である。

ところで、ススキに関する民俗を考えたとき、豊作祈願の呪術性の強いススキは絵柄のススキ文様と併せて、稲の初穂に見做していたのではないだろうか。そうすると、月見の習俗の中の稲作収穫儀礼の姿が明らかになってくる。つまり、ススキの穂は稲作の収穫を期待する月神や田の神が来臨するときの依り代であって、ススキを徳利に挿すことは稲の収穫祈願の穂掛祭・穂酒を示唆していると解されるのである。

穂掛祭や穂酒ことは菅江真澄の日記に記されており貴重である。穂掛祭は穂祭(かいほかい)の名で『みかべのよろい』(文化2年)に記され、お神酒に稲の初穂を添えて収穫を祈願する習俗である。穂酒は『男鹿の寒風』(同7年)に、稲作の収穫儀礼としてお神酒をついだ提(ひさご)に新しい稲穂を浸し神前に供える習俗であると記録されている。文化年間に、真澄が穂祭や穂酒は古い習俗であると、既に指摘していることは注目に値する。

ところで、1982年の横須賀市長井と三浦市南下浦の調査では、月見には徳利に酒を入れ、そこにススキを立てるという。まさに、穂酒そのものである。果たして、この事例は穂酒の習俗を伝えているのだろうか、更なる検討が要る。

お神酒を入れる徳利は、白鳥でなくても稲作の収穫儀礼の目的は果たせると思うが、神事の際、神の来臨する依り代や神饌の容器に相応しいものとして、ススキを立てたときの姿が見栄えのする白鳥が、多少値が張っても選ばれたのではないかと想像している。文献的に白鳥が登場するのは江戸中頃からであり、月見に白鳥が使われたのも其の頃からと考えると、白鳥の使用は比較的新しい習俗であろう。しかし、その根底には日本古来の稲作儀礼、穂掛祭・穂酒の伝統が脈々と息づいているのである。

参考 神奈川県内の月見調査を参考にした筆者宅の十三夜(2018.10.21)。供え物はお神酒、朝生家から頂戴した白鳥とススキ、里芋、団子、豆腐、ご飯、汁物、柿、ミカン、月餅、ススキの箸。



天象

相原 榮

10月

水星: 明け方の東天で高度を上げる、前半は観望好期 +2.4~-1.1等 おとめ座
金星: 明け方の東天で高度を下げる、観望困難 -3.9 おとめ座
火星: 夜半に昇り明け方南中、観望好期 -0.6~-1.2等 おうし座
木星: 夜半前に南中、観望好期 -2.9~-2.8等 うお座
土星: 宵に南中し夜半過ぎに沈む +0.5~+0.6等 やぎ座

3日 09h14m 半月(上弦)	10日 05h55m 満月
6日 月と土星の接近	18日 02h15m 半月(下弦)
8日 16h22m 寒露	22日 03h オリオン座流星群が極大の頃(好条件)
9日 10h 10月りゅう座流星群が極大の頃(悪条件)	23日 19h36m 霜降
月と木星の接近	25日 19h49m 新月

11月

水星: 後半は夕方の西南西天低空、観望困難 -1.1~-0.6等 おとめ→へびつかい座
金星: 夕方の西南西天低空、観望困難 -3.9等 てんびん→へびつかい座
火星: 夜半過ぎに南中、観望絶好期 -1.3~-1.7等 おうし座
木星: 宵に南中し夜半過ぎに沈む、観望好期 -2.8~-2.6等 うお座
土星: 夕方南中し夜半前に沈む +0.7等 やぎ座

1日 15h37m 半月(上弦)	18日 08h しし座流星群が極大の頃
6日 おうし座南流星群が極大の頃	22日 17h20m 小雪
7日 19h45m 立冬	24日 07h57m 新月
8日 20h02m 満月(全国で皆既月食)	29日 宵の南西天で月と土星が接近
13日 おうし座北流星群が極大の頃	30日 23h37m 半月(上弦)
16日 22h27m 半月(下弦)	

12月

水星: 夕方の南西天、後半は観望好期 -0.6~+0.3等 へびつかい→いて座
金星: 夕方の南西天低空、観望困難 -3.9等 へびつかい→いて座
火星: 夜半に南中、観望絶好期 -1.8~-1.9~-1.3等 おうし座
木星: 夕方に南中し夜半前に沈む -2.6~-2.4等 うお座
土星: 宵の南西天 +0.8等 やぎ座

2日 月と木星の接近	20日 12月かみのけ座流星群が極大の頃
7日 12h46m 大雪	22日 06h48m 冬至
8日 13h08m 満月	23日 19h17m 新月
月と火星の接近	07h こぐま座流星群が極大の頃
14日 22h ふたご座流星群が極大の頃(悪条件)	29日 夕方の南西天で金星・水星の接近
16日 17h56m 半月(下弦)	宵の南西天で月と木星が接近
	30日 10h21m 半月(上弦)